



ワン! モアヒューストン



Vol.1 「ただいま!ヒューストン」

川原志津香(家庭犬しつけインストラクター)



▲筆者と愛犬オスカー

ガルフストリーム読者のみなさま、こんにちは。東京で家庭犬しつけインストラクターの仕事をしていました川原志津香と申します。

今から7年も前になりますが、夫の駐在に伴いヒューストンで暮らしていた2010年から2015年の間、ガルフストリームに隔月で「ワン! ダブル ヒューストン」という記事を書いていました。今も商工会のホームページでバックナンバーを見ることができます。当時一緒に暮らしていたコーギーのシャーリとベルジアン・ターピュレンのヒューゴと一緒に体験した犬同伴イベントや犬に関係する話題を全28回の連載でお届けしました。

2015年に本帰国したため、連載は終了しましたが、今年1月に再びヒューストンに滞在する機会を得ましたので、愛犬オスカーとのテキサスライフをこの「ワン! モア ヒューストン」でご紹介していきたいと思いません。

初回は、オスカーがヒューストンに到着するまでのお話ししましょう。日本から犬を連れて引っ越すにあたり、まずアメリカへの犬の輸入について確認しました。[米国農務省 \(USDA\)](#)のホームページを見ると、アメリカでは現在、狂犬病、スクリューワーム(ラセンウジバエ)、口蹄疫などのリスクが高い国からの犬の輸入を厳しく制限しています。幸い日本はリスクが低い国とされているので、日本から犬を連れて入国することには問題はありませんでした。

次に、テキサス州への犬の持ち込みについて調べました。[テキサス州保健局](#)のホームページによると、生後12週齢以上の犬は狂犬病の予防注射を受けていること、そしてテキサス州へ犬を連れて入るのがその狂犬病予防注射の有効期間内であること、とありました。オスカーの場合は、渡米時は7歳で、狂犬病の予防注射も打っていたので、テキサス州に入るための条件も満たしていました。

次はフライトの手配です。飼い主が搭乗するフライトの予約の際に犬のスペースも予約します。オスカーは機内持ち込みはできない大きさなので、受託手荷物として預けることになりました。犬のスペースの予約には、移動に使用するクレート(プラスチック製のハウス)の大きさや、犬の体重とクレートを含めた重さなどを伝えます。前回の渡米時にも同様の手続きだったので今回も事前に調べてスムーズに予約ができました。オスカーは普段から使っているバリケンネルという頑丈なクレートで移動することになりました。

フライトが確保できたら、出発する空港の動物検疫所に連絡をします。東京からの出発の場合、成田空港にも羽田空港にもそれぞれ動物検疫所があるので、管轄の動物検疫所に出発前の検査の予約を入れます。出発当日に空港の動物検疫所で輸出証明書という書類を作成してもらうのですが、手続きに不備がないように事前に必要書類を教えもらったり、準備した書類を確認してもらったり、細やかに対応してもらえます。後日の記録のために、動物検疫所との連絡は全てメールで行いました。

日本から海外へ行き、またいずれ日本に帰る予定のある方は、実は日本を出発する前に狂犬病抗体価検査をすませておけば、帰国の手続きがとてもスムーズになります。詳しい手続きは[動物検疫所](#)のホームページに書かれています。7年前にヒューゴと帰国したときも事前にこの検査を受けていたためスムーズでした。帰国が決まってからでは検査が間に合わない場合もありますので、備えておくのは本当にお勧めです。すでにヒューストンで暮らしている方でも、帰国に備えて検査をしておくことと安心です。オスカーもいずれ日本に帰国することを想定して、渡米前に狂犬病抗体価検査を受けることにしました。

必要書類を整え、出発2日前にかかりつけの獣医さんのところで健康診断を受けて、出発当日の予約時刻に動物検疫所に赴きました。動物検疫所では30分程度で書類の再確認、簡単な健康診断とマイクロチップの確認をしてもらって無事に輸出証明書を発行してもらえました。

次はいよいよチェックインカウンターへ向かいます。スーツケースを預けるときにオスカーもクレートに入ったまま計量され、厳重にネットをかけられて預かり荷物となりました。

フライト時間は約12時間。フライトアテンダントの方から、「無事にわんちゃんも積み込まれましたよ」とお声かけ頂いたものやはり到着して顔を見るまでは心配でした。ヒューストンの空港に到着し、Welcome to Houstonという看板に感激するものもそこそこに、入国審査を受け、スーツケースの受取り場へ。少し待っていると、スーツケースより先に、「この犬の飼い主は〜？」と台車にクレートごと乗せられたオスカーが運ばれてきました。不安そうにヒャンヒャンと鳴き声をあげるオスカーを見て、周りの人たちが「長旅だったねえ」とねぎらってくれました。荷物検査は拍子抜けするほど何もなく、「犬がいるのか、早く外に連れ出してトイレさせてあげなさい」と軽く言われただけで、晴れてヒューストン入りすることができました。



▲成田空港にてチェックイン直前



▲厳重にネットを被せられて預けられました

輸出書類に不備がないかといういつもの緊張感に加え、コロナ禍で飛行機のキャンセルや自分たちがコロナ陽性になって出発できないといった事態がないか、など、今回の移動はこれまで以上に不安要素の多い移動でした。でも、なんとか無事に到着できました。あとは時間の限り、テキサスライフを満喫するしかありません。

今後のオスカーとの冒険にどうぞご期待ください!